

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1792200188		
法人名	一般社団法人 ケア・クリエイト		
事業所名	グループホーム野の花（「和の間」と「洋の間」）		
所在地	石川県白山市今平町111番地		
自己評価作成日	令和6年11月3日	評価結果市町村受理日	令和7年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 バリアフリー総合研究所
所在地	石川県白山市みずほ1丁目1番地3
訪問調査日	令和6年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様のできることを把握し、日々の心身の状態を考慮しながら、そのできることを日常生活の中で活動として実施している。職員がなんでもするのではなく、できる限り声掛けや促しを行い、また個々の能力に応じてできる環境を整え、その人が持つ力を最大限に発揮しながら、グループホームでの社会生活を営むことができるよう支援している。
またデジタルテクノロジーの導入により、次世代介護の実践により、ご利用者様の尊厳を保持・個別ケア・健康管理・リスクマネジメントの向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームは「その人らしい生活をその人らしく。あたりまえの日常をあたりまえに。普通の暮らしの毎日こそが幸せ。(要約)」を理念とし、今日の過ごし方は利用者本人が決め、職員はそれをサポートする姿勢で日々臨んでいる。
・地域住民やボランティア等も参加のホーム夏祭りは今年も盛況で、介護研修事業もある法人として、ホーム運営の中核をなす「行事・広報」「褥瘡・排泄・栄養管理」「感染症・事故防止対策」「虐待・身体拘束廃止」「防災」「運営適正化」の各委員会活動にて職員の思いを反映させ、利用者本位のケアが浸透して行くよう取り組んでいる。
・食事は一般家庭と同じく都度献立を考え食材もスーパーで、下拵えや片付けには利用者も参加する美味しさファーストの料理に、入浴はリフト付き浴槽もあり使用毎に洗浄と湯はりをし、トイレには入退室時刻・個別識別・異常検知・排泄情報等の利用記録システム、睡眠はマットレス下のセンサーで脈拍・心拍・睡眠・覚醒・起床・離床等の見守りシステムにカメラも設置など、IT管理と職員技能にて、利用者のあたりまえの毎日に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)		1. ほぼ全ての利用者が	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議の際や、個別面談の際に管理者が職員に伝える、秋まつりなどの機会に掲示する等により共有し、実践につなげている。	ホーム理念「・その人らしい生活をその人らしく・あたりまえの日常をあたりまえに・普通の暮らしの毎日こそが幸せ(要約)」は、法人理念「未来の幸せを創造する」を基に掲げたもの。重度化や終末期になっても食べられるのなら様々な工夫を施し、1日でも長くそれがあたりまえの日常になるよう取り組んでいるなど、理念をぶらさず、最善のケアとなるよう日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で活動している団体からの慰問を通して、地域住民との交流を深めている。また秋祭りには地域住民・ボランティアも含め、150名程の催しとなり、地域とのつながりを徐々に深めていることを実感しながら過ごすことができている。地域の文化祭の参加、地域住民の日常的な訪問など付き合いは深まっている。	回覧板や朝刊折りこみで広報したホーム秋祭りには、利用者家族以外にも地域住民や地元ボランティア、福祉事業所等に参加頂き盛り上げてもらい、地区文化祭へはペットボトルキャップアートを出展。野菜直売会やお餅の無料配布にも参加し、地区の福祉施設連絡協議会でも災害時の助け合い協議に加わっている。今後もホームページ開設をはじめ、利用者が地域とつながりある暮らしができるよう取り組んで行く方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口の開設・相談援助や福祉避難所の登録、徘徊高齢者ネットワークの参加などは実践しているが、本来事業所がもつ力を十分に活かしている状況ではない。今後、地域住民向けの広報誌などの作成を通しより推進していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は偶数月の第3土曜日19時～で運営推進会議を開催しているが、事業報告がメインとなっており地域住民の声を引き出すことができず、施設運営に活かすことができていない。参加者の声を十分に引き出し、事業運営に活かすことができるよう取り組んで行くことが必要と考える。	会議は、町内会長、民生委員、地域包括と市担当課職員に、契約時に順に参加して頂けるよう承諾を頂いている利用者・家族で、偶数月に開催している。入退去数やサービス状況、行事案内等を報告し、今年度は本人・家族から承諾を得た居室に夜間用の見守りカメラを導入した経緯や現状と効果を説明し、理解と所見を頂いている。今後はさらなる会議の充実化に臨んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	能登半島地震避難者受入や新規事業への取り組み、現事業の適正な運営方法など市町村担当者と連携をとり対応している。	市担当課には、運営推進会議にてホームの現状を伝え、4年前の開設前から指導や助言を頂き、コロナ禍ではマスクや手袋等のほか、福祉避難所としてもポリエチレンエプロンやガウン、手袋、消毒剤等の供給を受け、またホームも市主催の高齢者虐待研修等に管理者も職員も積極的に参加させて頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する施設内研修の実施、施設外研修受講者の報告研修の実施、職員アンケートを実施し、理解促進を促している。身体拘束は実施していないが、スピーチロックやドラックロックに該当すべきものがないか、日々客観的にケアを見直し実施している。	身体拘束の正しい理解は、年間研修計画に虐待・拘束委員会による研修を毎年組み入れ、外部の関係研修に参加した職員からも報告の場を設け、厚労省指針に沿った虐待防止サンプルアンケートも実施し、その結果を職員情報共有アプリや職員会議で公表し気付き等を促す機会を設けている。本人・家族の承諾を得た居室に夜間用見守りカメラ導入、介護拒否対応、入浴後の衣服選び等々、現在、運営適正化委員会が主となって、実際に起きた問題や課題を、皆でその糸口を探しながら解決・改善に向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に対する施設内研修の実施、施設外研修受講者の報告研修の実施、職員アンケートを実施し、理解促進を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	教材の提供などにより、職員の知識向上を図っている。今年度は入居者の生活保護申請、住宅扶助の兼ね合いより多床室特養への転居もあり、実際のケースを通して学びを深めることができたと感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、その後不明点等あれば都度対応している。他、介護保険料改正時には文書にて案内し、不明点の問い合わせなどがあれば都度対応することとした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の行事計画は利用者の意向を反映した計画になるよう取り組んでいる。 入浴時など職員と1対1になれる時間などにゆっくりと傾聴することで、日常生活の中で意見・要望を表せることができるよう心掛けている。そして、その意向を反映できるように努めている。	利用者とは、今どうしたいのか何を求めているかを察せられるよう心がけ、家族も訪問面会が多く居室での面会も可能としている。また法人代表者の携帯への電話やメールも多く、グループ会話アプリ開設も検討している。現在、利用者の声で毎週移動スーパーが来て買い物を楽しんで頂いており、毎月行きたい所を聞いて繰り出したり、ペットも面会に来たり、外出の出際に偶然家族が来て一緒に喫茶店に行ったこともある。今年のホーム秋祭りも盛況に終わり、今後も利用者・家族・職員とが共に触れ合える行事も増やして行く方針である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や委員会活動、行事計画の立案、居室担当制、個別面談、意見提案書の提出などにより聞く機会を設け、反映させている。また運営適正化委員会にリーダーのみならず、一般職、パート職員も参加し、現場の意見を運営に反映させることができるよう取り組んでいる。	職員の意見や提案は、2ユニット合同の全体会議と、法人代表と各リーダー、業務改善推進者で構成の運営会議が毎月あり、決済や伝達事項等は職員情報共有アプリで共有を図っている。全職員が行事・広報、褥瘡・排泄・栄養管理、感染症・事故防止対策、虐待・身体拘束廃止、防災、運営適正化の6委員会のいずれかに1年任期で所属し、ホーム運営に直接携わる仕組みとなっており、利用者にとって今何が必要かを経験者・未経験者を問わず全職員で協議・検討しながら取り組む姿勢で日々臨んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談や日頃のコミュニケーションを通じて、職員のニーズを把握し、その改善に取り組むなどすることで職場環境の整備を行っている。今年度は給与水準の向上した。また所属する委員会に関連したことや本人の意向を確認しながら外部研修の参加を促進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修への参加や、OJT、個別面談を通して育成している。個々の職員の能力や興味・感心に応じて参加研修を提案し、参加促進している。現在アセッサー3名目を養成中、今年度キャリア段位に取り組む予定であったが、委員会の運営方法習得などに注力したため、進まず。次年度よりキャリア段位制度を活用し、育成していくベースを構築している。またデジタル中核人材育成研修などの参加により職員が事業所の課題を洗い出し、課題解決に向けた取り組みを実践できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会への参加や介護福祉士会に参加し意見交換している。また交流する機会はなかったが、林中地区福祉施設連絡協議会にも参加し、交流できる環境を整備している。今後も参加できる機会があったら、積極的に行っていきたい。また今年は3名の職員が1.5次避難所のボランティアに参加し、交流を図ったことで、サービスの質の向上につながったと感じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時に、本人の意向を確認し、サービス調整を実施することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。また家族からも情報収集することでその人らしさの把握に努め、本氏の課題解決に向けたケアに活かし、関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時に、ご家族様の意向を確認し、サービス調整を実施することで、ご家族様との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメント時に他機関との連携が必要とされることを踏まえ、ご本人様及びご家族様と調整している。必要に応じて医療をはじめ、他機関と連携し支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・洗濯・掃除などの家事に参加していただいたり、他利用者ともちつもたれつの関係を築くことによりご本人様の役割構築を行っている。機会を見つけては感謝の気持ちを伝えるようにすることで、介護される一方の立場でないことを利用者自身が認識できることがよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においてもご家族様にも感染対策に努めていただき、面会を継続してきた。ご家族様には人のみでなくペットも含まれるものと捉え、一緒に暮らしていたペットも面会に来て、ご利用者様、ご家族様、職員、みんなでもともに支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	筆筒や写真、ぬいぐるみ、遺影などその方にとって思い出の深いものをご入居時にお持ちいただいたり、職員との会話の中で大切にしてきたなじみの人や場所の話題を出すことにより支援している。またご友人の面会なども頻繁にあり、人間関係も継続されている。	利用者には地元の方も多く、家族・親族のみならず友人や自宅近所の方の訪問もあり、職員もその利用者の家族のように迎え、また来てもらえるような接遇に努めている。外出・外食先も皆が馴染みのラーメンチェーン店にしたり、地元の名所に出向いたり、馴染みの道や場所に少し遠回りをして立ち寄るなど、個々の個別の関係支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の社会関係構築を支援することが介護職の仕事と捉え、ご利用者様の仲立ちをすることで関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に介護相談に来られた際に、延命についてともに考えたり、医療依存度が高くても入居できる施設を探すなどをしている。他施設へ入居された後に、そこでの生活状況を伺ったりしている。また支援終了されたご家族様へ秋祭りのご案内をお送りし、ご参加いただき、交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様同士の会話や職員との会話の中から思いを把握するように努めている。また日頃より職員に思いを表出することができるよう、ご利用者様との信頼関係構築に努めている。	ご飯を食さなくなった方がつぶ餡が好きと知り羊羹を食べて頂いたり、好みの芸能人はじつは違っていたり、何気ない会話もケアに反映することもあり、時に本人が言っている事とと思っている事が異なる場合もあるなど、会話には言葉だけじゃなく、不安や焦りなどその時に感情も汲み取れるよう心がけ、傾聴を基本としながらも、利用者個別の普段の行動パターンや兆候を基に今の本当の思いの把握に努め、また言ってくださるよう、その思いに応えられる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様より生活歴について話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、職員間のコミュニケーションによりご利用者様の心身状況および生活状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的なコミュニケーションのなかで職員が意見を出し合ったり、面会時にご家族様から意向を確認したりしてモニタリングを行い、介護計画を作成している。	入居当初は、ホーム生活に慣れて頂くことを最優先に、症状や身体機能に即して、ホームでできるケアを主体に、短期目標を半年、長期目標を1年とし、食事、排泄、身体能力等日常的ケアの仕方や方針とともに、本人のしたいことや好むことを拾い余暇の充実化を進め、以後は1年更新で進めている。元日地震被災後の環境変化で、その表情から不安がっている気持ちに寄り添う支援を計画化しているなど、個別性をさらに高めた計画にさせて行く方針である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況及び心身状況とその対応を記録し、情報共有を行い、モニタリングに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により通院付き添い支援や入退院時の連携、薬局との連携、往診、訪問看護ステーションとの連携などをおこなっている。また傾聴ボランティアの活用によりより利用者の思いを引き出すことができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の秋祭りや地域の文化祭を通じ、地域住民と交流を通し、地域と協働し利用者を支援していくことができる。多くの地域住民の秋祭りへの参加、文化祭でのかかしコンクール受賞による表彰式参加、野菜直売会やお餅の無料配布への参加の際に地域住民との交流が多く、地域全体で利用者の豊かな暮らしを支え、地域と楽しく過ごすことができるよう支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の往診医と連携しながら、受診が必要な場合は本人の希望を大切にし、なじみの医療機関に受診するなどし、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は、入居前からの通院先でも、月2回訪問の元精神科病院の内科医で在宅療養支援のホーム提携医でもかまわなく、通院や外来受診へは基本家族付き添いをお願いしているが、事情次第では職員が連れ添ったり、状況報告書を渡してその診療結果をお聴きしたり、受診に同行する場合もある。また2つ訪問看護事業所とも提携しており、提携医と同様24時間受付で、症状次第で訪問してもらい緊急性にも応じて頂き、薬局とも配達して頂いた際に個別仕分けや薬事相談にも応じて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携先の訪問看護ステーションと日常的に連携をとり、日々の状態の変化に応じた対応及び異常の早期発見、早期対応に取り組んでいる。また医療保険の訪問看護実施時には他の訪問看護ステーションにも協力を得て、適切な看護が提供できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を送ったり、退院時に状態確認のアセスメントに伺ったり、カンファレンスに参加したりしながら情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を実施。また終末期などにおいては必要に応じて医師を交えてICを行うなどし、方針を共有し、チームで支援している。	入居時に、医療措置を要せず希望があればここが終の棲家になる方針を本人・家族に伝え、また近郊の終末期医療がある2病院と介護老人福祉施設への移行も可能で、入居継続・入院・転居等、都度、揺れ動く家族の気持ちに寄り添い、いついかなる方向にでも納得の行く終焉となるよう取り組んでいる。これまで家族が泊り込みの看取り事例もあり、逝去後は振り返り勉強会も実施。寂しくならぬよう絶えず声かけをし、少しでも長く経口摂取ができるよう、本人の好物をいろいろな形態に工夫して支援させて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制を整備し、迅速に連携が取れるようにしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡系統を明確にすることで体制を整備をしている。	けが・転倒・窒息・意識不明等の対応マニュアルは、ホームに即した内容までには至っていないが、現在、運営適正化委員会が今の利用者個別に即した内容に見直しを図っている。日頃の事故防止ケアでは、法人代表者とユニットリーダーが通常の実務を通して、随時、職員個々の能力に沿った個別指導研修をしており、また希望の外部研修があれば参加を奨励している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	緊急搬送時に受け入れを実施していただいている。また介護老人福祉施設においては特養入居希望の能登避難者の受け入れしていただいた。	協力医療機関には提携の在宅療養支援のホーム医と2つの訪問看護事業所に訪問診療可能な歯科医院があり、近郊の終末期医療がある2病院と介護老人福祉施設とは災害時緊急受け入れ契約を締結しており、利用者の状況に応じた支援体制が確保されている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニットに夜勤者が配置されており、2名で連携しながら対応できる勤務体制になっている。	夜勤者2ユニットに1名ずつ計2名の夜間体制で夜間専任職員もいる。マットレス下のセンサーで脈拍、心拍数、睡眠・覚醒、起床・離床等の介護見守りシステムとトイレ見守り管理システムに、今年度は本人・家族から承諾を得た居室に夜間用見守りカメラも導入し、タブレットで3時間置きに睡眠状態を確認し、夜間の体調変化や急変に万全を期すとともに業務負担軽減を図っている。また管理者、提携医、訪問看護事業所にはいつでも連絡可能となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルにより周知している。またLINEWorksの導入により、災害発生時などは職員全体で一斉通知ができるよう体制を整備している。	防災マニュアルはあるもののホームに即した内容までには至っておらず、現在、防災委員会が見直しに着手している。年2回の避難訓練は消防署員立ち会いで、利用者也駐車場や施設内の地域交流室に退避し、防災機器の操作や初期消火・通報・退避等の一連の避難行動を確認している。当地に起こりうる災害には水害が最も懸念され、その対策と管理者が修了したDMAT研修をどう活かすかを、今後の課題としている。	方針通り、具体的な水害対策及びDMAT研修を活かす取り組みに着手されることを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルを整備するとともに、一定の備蓄を備えている。また福祉避難所となっている。	施設は井戸水の貯水槽を持ち、ガス設備の代替として灯油備蓄のほかポータブル発電機にバッテリー、ソーラパネル、ラジオ付き懐中電灯等の防災品は備えているものの、備蓄品は衛生用品の在庫と飲料ペットボトルのみになっており、在宅酸素療法で酸素濃縮装置の持参が必要な方もいることから、現在、今の利用者に即したより現実的な備蓄・防災品整備に向け、防災委員会が着手している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などプライバシーに関連する声掛けは、できるだけ他者に聞こえないように配慮している。	人権尊重や自尊・羞恥心への配慮は、褥瘡・排泄・栄養管理と虐待防止・認知症ケア推進委員会が主体となり、実践に即した理解や周知に努めている。ほぼ1日塗り絵で過ごす方がおれば、車椅子を押したり食事介助もしてくれる方もおり、飾りつけを一緒にしたり、文化祭出展品を手伝ったり、仕事でここに来ていると思われている方には洗濯物たたみやおしぼり巻き、血洗いをしてもらい、その方がいた方言でケアをさせて頂いている方もいるなど、利用者が持つ本来の人柄や今の症状、歩んで来られた人生など、個々の個性を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に話を聞いたりしてご本人様の思いを聴き、支援に生かすようにしている。特に入浴時などはゆっくりと話すことはできるため、思いを聴くようにしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々の生活のペースやその日の心身の状態に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や衣類の選択を一緒に行うなどしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な調理において皮むき、大根おろしづくりなどの下準備、食材カット、盛付、食器洗いや食器拭きなどをしていただいている。干し柿づくりや、ずいきの皮むきなど見当識に配慮した取り組みを実践し、楽しく季節を感じるができるようにしている。またおやつレクや調理レク、行事食などを実施をし、日常的に季節の食材を利用するほかにも、イベントとして食事を楽しむことができるよう支援している。	献立は一般家庭と同じく都度考え、食材はスーパーで購入だが、自家菜園の収穫物やお裾分けで同一食材が大量になる事もあり、どんな料理が良いかを利用者にも聞いている。仕度が始まると寄ってくる方々がおれば、下拵えや食器洗いをしてくださる方もおり、職員に調理師や管理栄養士もいる美味しさファーストの料理は、ソフト食も工夫している。外食も人気店やフードコートに行ったり、お好み焼きは素材作りから楽しみ、お節は個別に小さな重箱盛りと雑煮で、雛祭り、七夕、ハロウィン、クリスマスは全員帽子をかぶり総菜バイキングなど、行事・広報委員会のもと行事料理も豊富で、今はいかに雑煮のソフト食を作るかを考案中である。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録を行い摂取状況を把握している。またご利用者様の状態に応じ、様々な食事形態の提供、主食量の調整などを個々の咀嚼・嚥下状態及び健康状態に配慮し支援している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行い、口腔ケアを実施している。その際、できる限りご本人様の残存機能を活かして実施することができるよう声掛けなどを行い実践している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者様毎の排泄時間や排泄の合図となる動作を把握することにより、個々のご利用者様に応じた時間に声掛けしトイレ誘導を行ったり、その合図を見逃さないよう見守りし、そのタイミングでトイレ誘導を行うことで自立に向けた支援を行っている。	全利用者のトイレ入退室時刻・個別識別・室内異常検知・排泄情報等のサニタリー利用記録システムで、羞恥・自尊心の保持とともに、適切誘導時間や介助の仕方の統一を図っている。便秘や頻尿等、生活習慣にズレが生じた時は、何故崩れたのか、その原因に基づいて、水分や食物摂取調整、職員間で役割負担調整を図り、薬剤調整とともに普段の暮らしの中で改善や維持に向け取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量と排泄状況を踏まえ、食事メニューに水溶性・不溶性食物繊維をバランスよく組み込むなどの調整を行ったりしている。また医療職と連携し、排便コントロールを実施している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に合わせて、時間や順番の声掛けを行っている。入浴拒否がある場合は時間をおいて声掛けしたり、翌日にお声掛けするなどし対応している。また十数種類の入浴剤をご用意し、入浴を楽しんでいただいている。	浴室は、広めの一般浴槽のユニットと、立ち上がりが困難な方向けのスライド式リフトがあるユニットの2ヶ所で、日曜以外の午前中に両ユニット合わせて6人の方々に、週2回以上を目安にご利用頂いている。使用毎に浴槽洗浄と湯はりをし、豊富な入浴剤を都度選んでもらい、時には差し入れて柚子湯にもなる。湯けむりの中、職員と2人だけの他愛のない会話が盛り上がったたり、本当の気持ちに気づいたりすること多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを導入し、個々のご利用者様の睡眠状況を把握し適切な支援に取り組んでいる。個々のご利用者様に応じた室温や照明・寝具等を調整し、安心して眠ることができるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は正しく服用できている。また薬事情報を職員の目に留まるところにおいておき、情報共有に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回の外出(外食)レクにより気分転換を図っている。また誕生会や個別レクリエーションを実施により喜びや楽しく過ごせる機会をつくっている。また日常的な家事に参加していただくことで役割の創出を図っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望があれば、近所に散歩や回覧板回しなどに行っている。	コロナ禍では一緒に回覧板回しや自家菜園の実り具合の確認や家族との通院や法事くらいが外出だったが、今は毎月行きたい所をお聞きして、感染対策を講じながら、今年度は花見、バラ園、馴染みのラーメン店、近郊の海辺、金沢港のクルーズターミナルでは帰りに人気バーガー店でソフトクリームも食べるなど。また落ち着かない症状が伺えた場合も気分転換に個別でドライブにお誘いしたり、個別外出のの際に偶然家族が来て、そのまま一緒に喫茶店に行ってもらったこともある。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいないが、週1回移動スーパーが来園し、個々の希望のものなどを購入することができる支援を行っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙、年賀状、荷物(誕生日プレゼントや衣替えの衣類など)などが届いたら本人にお渡しし、必要があれば読み上げたりしている。また携帯電話を持っている方には、電話を受ける・掛ける支援を行い、施設電話にご家族様より電話があった時は取り次いだりしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・換気・音量などご利用者様に適宜確認しながら調整している。またご利用者様と共同で季節感を感じることができる壁面制作を毎月行い、掲示することによりご利用者様が居心地よく過ごすことができ、またご利用者様と共に来園者をもてなすことができるようにしている。	施設は、玄関ホールを中央に、両側に洋風ユニットと自家菜園や神社が見える和風ユニットがある横長構造で、その日の天候に合わせ窓開け換気や消毒・除菌、温度、湿度、照明等を調整し、感染対策と快適空間作りに努めている。それぞれ中央側にキッチンがあり、調理を始めると美味しい匂いが立ち込め、今日の料理を確かめに来る利用者もいる。高さ調整可能なテーブル3脚と炬燵兼用テーブルもあり、塗り絵や洗濯物たたみ・おしぼり巻きに没頭される方々、飾り付け作品を作ったり、両ユニットで役割を持っている方もおり、また地元ボランティアのトーンチャイム演奏は好評で、クリスマスをより楽しませてもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーと食事のスペースを分けし、その人の気分に応じて過ごすことができるよう工夫している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からなじみの筆筒やご家族の写真、愛用のぬいぐるみなどを持ってきていただき、安心できる環境を調整している。	全室が洋室で、マットレスの下に睡眠状況と起床・離床等の管理センサー付きのベッド、6色から選択のカーテン、チェスト、各室色分けの壁紙に鏡付き洗面台が備え付け。持ち込みには先祖の遺影、家族写真、収納ボックス、使い慣れた電気毛布、家族写真がプリントされたクッションやひざかけ、CDラジカセで好きな歌手を聞く方もおればクラシックに興じる方、ぬいぐるみの持ち込みも様々で、皆1日のほとんどをリビングで過ごしていつも、移動スーパーが来たら必ずひ孫にあげるお菓子を買って込む方もいるなど、自分のライフスタイルを持っている方が多い。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に応じて表札を掲げたり、居室の雰囲気を変えたりすることで認知症の状況や心身状況に応じて安全に自立した生活を送ることができるよう支援している。		